

# モードは語る

中野 香織

シーズンごとに目新しいルックが提案されるものの、既存のカテゴリーに入らない新アイテムなど、もはや創り得ないのではないかと思っていた。

ところが目が覚めるようなアイテムが登場した。甲冑（かっちゅう）である。米誌「ハーバース・バザー」2月号ではグウィネス・パルトロウがメタリックなピンクの甲冑風トップを着て表紙を飾った。続いて第25回放送映画批評家協会賞のレッドカーペットでは、ゼンディアが同アイテムを着用して注目を集めた。

人気女優2人が着用したフーシャピンクの甲冑は、トム・フォードが2020年春夏コレクションで発表した「プレストプ

## 甲冑風のトップス

## 職人技とハイテクを融合

レート」である。素材はアクリルラッカーのクロム合金。3Dスキャンで胸のトルソを作り、アクリルで型をとり、型から形を描き出してクロム処理のプロセスを行う。レザーの裏地が型に合わせて成形される。職人技とハイテクが融合したSFアート感覚を漂わせる装備である。

胸の形が生々しいが、メタリックなサイボーグ感もあってエロチックな感じはしない。連想したのは古代ギリシャの筋肉の形をリアルになぞった甲冑「マッスル・キューラス」。ギリシャの英雄の彫像は筋肉質のヌードだが、甲冑も英雄の筋肉を理想としてなぞっていたのだ。

実は他ブランドからも武具風アイテム



トム・フォードが2020年春夏コレクションで発表したプレストプレート

が登場している。皮革製ボディス、チェーンメール（鎖鎧）風のトップスなど。いつ戦争に巻き込まれても身を防御できる「ウォーコア」の流行からさらに進化し、いつでも戦闘可能なスタイルがトレンドの兆しとして表れている。

2017年の映画「ワンダーウーマン」に登場するアマゾネスへの連想も飛ぶ。女性としての美しさを見せつけながら、高い戦闘能力を発揮する戦士たち。かつてエマ・ワトソンが、フェミニズム提唱者でありながら胸もとあらわなポーズをとり、言動が矛盾していると批判されたことがあった。いやしかし、フェミニストであることと女性として生まれた身体を誇らしく見せることは矛盾しない。メタリックピンクの甲冑に、古いフェミニズムの足枷（あしかせ）を吹き飛ばす頼もしさを見る思いがする。（服飾史家）